

学習成果の可視化¹に関する試案 (1)

—中国語初級段階における発音習得を中心に—

大島 吉郎 (大東文化大学外国語学部)

A Tentative Plan for the Visualization of Learning Achievement with a Focus on Chinese Beginner's Level Pronunciation (1)

Yoshiro OSHIMA

Abstract: 目的: 本文试图提出汉语入门、初级阶段中必须掌握的一种学习目标核对表(发音篇)。方法: 学习语言过程中一般先以发音为出发点, 然后逐步接触和学习简单的词语和语法。我们为高效率提高汉语水平, 应该把有关学习目标—例如韵母、声母、声调、音节等—以量化这种方法描写出来。量化主要用5度法, 5为最高评价。结果: 期盼本稿提出的核对表方案先让学生自己记录达标, 然后由老师检查而师生轮流继续记录达标。结论: 该核对表经过实际使用加以改进。

Keywords: 可視化 中国語 発音 音节・声母・韻母・声調

目次

- 0. はじめに
- 1. 韻母
- 2. 声母
 - 2.1 有気音・無気音
 - 2.2 卷舌音
- 3. 声調
- 4. おわりに

参考文献

付表

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅰ 韻母・声母

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅱ 声調

1 学習成果の可視化: 文部科学省令和元年7月5日中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会(第6回)資料1「学習成果とその可視化」(京都大学高等教育研究開発推進センター松下佳代)参照。

0. はじめに

母方言の獲得は幼少期より始まって、遅くとも10代前半には一定のレベルに到達することで言葉の誤用、錯誤は解消される。一方、外国語の習得は思春期に開始する英語学習が義務教育で行われ、成人に達する時期には高等教育機関において英語以外の外国語を学ぶ機会が訪れる。近年では日本社会の国際化に対応することを目的とした小学校高学年からの英語学習が開始され、母方言習得を終える端境期での外国語学習がどのような成果、及び言語能力への影響を及ぼすのか注目が集まる²。

母方言、例えば日本語における関東地方の東京下町の言葉³を例に取って考えてみれば明らかのように、独自の音声・語彙・文法体系を有する話者にとって、体系を異にする、語族の異なる外国語⁴の習得には複雑なプロセスをたどる必要があり、膨大な時間と労力が求められる⁵。

新たな言語を獲得するという目標のために教授者、学習者はともに到達目標、到達レベルを設定し、そこに至るまでの工程表を正しく描き、然るべき道筋をたどることが、投下した時間と労力に対する正当な評価を得る上で不可欠である。これまでもレベル別テキスト、語彙集、会話集により学習内容、レベルの傾斜、全体像が示されて来っており、技能としての外国語学習は、学習成果の可視化が具現されやすい分野の一つであると言えることが出来る。しかし、学習成果そのものが可視化されて来たかという点必ずしもそうとは言い切れないのは、教授者の視点からの可視化に特化した教材が大多数であり、資格取得のための学習者からの視点を中心に据えた検定試験関連の参考書、問題集は習得のプロセスを問題とせず、学習成果を同一平面状に集約することで学習者の期待に応えるものであり、大局的には学習成果の可視化ではあるが、合格基準点をクリアするか否かの成果を評価するために特化した可視化であるため、標準化された客観的な可視化であるとは言えない⁶。

可視化を実行に移すためには、学習内容、到達目標、工程表の他に、評価方法、評価基準を定め数値化する必要がある。本試案は、中国語習得の道筋を発音、語彙、文法に分け、本稿では中国語学習者が入門期に習得すべき発音のポイントに焦点を絞り、教授者・学習者双方の視点から評価し、次のステップに進むシステムのための試案を提示し、学習成果の可視化に対する一つのモデルを提供しようとするものである。

発音レベルには

- 1、通用範囲内
- 2、標準的

2 母方言（出生地、あるいは家庭環境、公教育において使用される言語；日本においては標準的日本語）の運用能力への干渉が生じるのではないかと懸念がある。

3 東京の下町言葉には特有のガ行鼻音のあることが指摘されている。沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾（2006：pp.21-22）参照。

4 日本語おアルタイ語族に分類する考え方も見られるが、東アジア近隣の諸言語との隣接性、連続性がみられないことから、実際には世界のどの語族にも属さない孤立した言語であると考えられている。詳しくは崎山理2017参照。

5 言語中枢と発声器官をコントロールする運動中枢、聴覚神経系のネットワーク形成を促す必要がある。

6 資格取得のための検定試験が教育を主たる目的としていない以上、当然の帰結である。

- 3、正確
- 4、流麗
- 5、品位

といった基準による評価が可能である。本稿で提示する可視化のレベルは1から2を想定するものである。

以下に、中国語入門段階において習得すべき項目、内容について、学習に着手し進行する順番に従って、その概要とチェックポイントを述べる。

1. 韻母

中国語の音節は410あまりあるとされる⁷。中国語の音節を構成する要素には、声母、韻母、声調があり、以下のような構造を形成する。

音節 = 声母 (語頭子音) + 韻母 (介母音・主母音・尾音) / 声調

「韻母」は介母音・主母音・尾音を包括する総称として用いられる中国語学の用語である。「介母音」は「韻頭 Medium」、「主母音」は「韻腹 Vowel」、「尾音」は「韻尾 Final」とも称され、「声母 Initial」、「声調 Tone」、「音節 Syllable」と併せて、

$S = I + M + V + F / T$

I : b p m f d t n l g k h j q x zh ch sh r z c s

M : i (yi) u (wu) ü (yu)⁸

V : a o e i u ü

F : i o u n ng

T : 第1声 第2声 第3声 第4声⁹

7 興水優 (2005 : pp.64) は「音節の総数は400あまりで、これにそれぞれ4種類の声調をかぶせて、合計は1300音節近くなる。(中略)『新華字典』は415音節である。『現代漢語詞典』は4種類の声調も加えて総数1247音節となっている」と述べる。日下恒夫 (2007 : pp.20) は「中国語の音節は全部で410ほど(数え方による違いがあります)」と述べ、平井勝利 (2012 : pp.51) では「中国語の初学者に対する音声教育において、その第一段階の到達目標とするのは、音節全表に見られる411の音節を声調を伴って正確に発音できるようにすることである」とのべる。楊文全主編《現代漢語》(pp.103) は「根据我们对《现代汉语词典》(第5版)的粗略统计,除去轻声音节、方言音节和辅音音节外,普通话共有1270个左右带声调的音节。如果不带声调,普通话只有不到410个音节,称为基本音节,其中有90%以上的是由声母和韵母构成的,只有8%的音节光有韵母,没有声母。」と述べ、音節の数は410、声調を伴う音節のパターンは1270ほどであるとする。日本語の音節数の約4倍、声調を加えると12倍以上の音声イメージを日本語母語話者は獲得して行かねばならない。音節の数え方は音韻学的の整理を経たものであり、当然の事ながら音声現象そのものを指すものではない。

8 括弧で示す記号は声母が無標(ゼロ声母)である場合の表記で、便宜的にiにはyを、uにはwを添えて音節であることを表記する。

9 轻声を含めることはしない。声調は主母音の位置に現れ、語の意味を弁別する機能を担うため超文節音素とも

と表記することが出来る¹⁰。音節は全ての要素がそろうとは限らないので、空欄となる要素を括弧で示すと、単母音が最小単位となって音節を構成する場合があるため、以下のように示される。

$$S = (I) + (M) + V + (F) / T$$

36 通りある韻母は組み合わせの構造により次の 5 種類に分けられる。音声の学習、習得には構造が単純な単母音から初めて、徐々に複雑な母音へと進むことが手順として相応しい。

- (1) 単母音：a o e i u ü¹¹
- (2) 二重母音：ai ei ao ou ia ie ua uo üe
- (3) 三重母音：iao iou uai uei
- (4) 鼻音を伴う母音：an en ang eng ong ian iang in ing iong ong uan uang ueng
üan ün
- (5) 特殊母音：er¹²

日本語の /N/¹³ は [n]、[ŋ] の如何に関わらず、意味の弁別に関わらないため、日本語母語話者にとって鼻音を伴う母音の習得には一定の困難が伴う。「案内 annai」、「案内 angai」の例をもとに同化作用の現象として [n] (前鼻音)、[ŋ] (奥鼻音) の音声的特徴を把握するよう説明するテキストが多く存在するが、学習者が内省して正しく認識するには手段としては十分とは言えない。本稿では以下の 10 項目を確認することで両者の差異を自覚的に習得することが出来るものと考え

- (1) 唇が合わさるか合わさらないか
- (2) 口の開き具合が大きい小さいか
- (3) 上下の歯が合わさるか合わさらないか
- (4) 舌の位置が前か奥寄りか
- (5) 口の中の空間が広いか狭いか

称される。現代中国語（“普通話”と称される共通語）では 4 種類の声調が規定されているが、伝統的な中国音韻学では四声と称され、平声・上声・去声・入声のことを指す。入声は方言に見られるものの、“普通話”には現れず、平声が陰平と陽平に分かれる。轻声は固有の発音時間（音の長さ）、音の高さ、音の強さを持たないため声調とは対称的であり、声調の存在を前提として発生する依存的音声現象であると言ってよい。

10 用いる音声記号はピンイン（正確には“漢語拼音方案”）と称される中国式アルファベット。

11 感嘆詞に用いられる [ê]、単独では現れない [ɿ]、[ʅ] は含めていない。[ɿ] は声母 /zh/、/ch/、/sh/、/r/ のニュートラルな状態に現れ、[ʅ] は /z/、/c/、/s/ のニュートラルな状態に現れ、それぞれ /i/ で表記される。

12 邵敬敏 (2001: pp.18) は現代中国語の韻母の数を 35 とし、特殊母音は加えない立場を示す。/er/ を除いた 35 の韻母に /ê /、/i/ [ɿ]、/i/ [ʅ]、/er/ を加え、実際には 39 の韻母があると記述する。外国人にとっては数字二の音節が /er/ であるため、/er/ は極めて重要であり、基本的な母音に組み入れておくことの利便性が高い。

13 [N] と表記されるものは、後に続く音が無いときに現れる口蓋垂音（中島平三・外池滋生 1994 : pp.87）。

- (6) 鼻から抜ける息の量が多いか少ないか
- (7) 発音時間は長いか短いか
- (8) 音の響き具合は鋭いか鈍いか
- (9) 音色は明るい暗いか
- (10) 音程は一定か下がるか

この10項目すべてについてチェックする必要は無いものの、対立する音声的特徴（意味弁別素）を帰納しイメージすることの意義が認められるであろう。

入門段階における韻母の学習目標は上記単母音から特殊母音までの5種類のパターン全36個の韻母を習得することである。習得するための基準として、次のようなステップを設定することが出来る。

- (1) 他の韻母と聞き分けることが可能である（リスニング）
- (2) 他の韻母と発音し分けることが可能である（シャドウイング）
- (3) ローマ字（中国語ではピンイン“拼音”と称する：以下ピンインと表記）での表記を見て正しく発音することが可能である（リーディング）
- (4) ピンインを正しく表記することが可能である（ライティング）
- (5) 発音を聞いてピンインで正しく表記することが可能である（ディクテーション）

評価基準は教授者、学習者それぞれ5段階に設定し、教授者は客観的評価を行い、学習者は主観的評価（自己評価）による。学習者と教授者は常にフィードバックを行うことで、より良い学びにつながる事が予想される。

2. 声母

中国語の声母はゼロ声母¹⁴を除いて21種類ある。調音点と調音方法により整理したものに平井勝利（2012：pp.13）がある。

中国語の子音（声母）の学習で中心となるポイントは有気音・無気音の対立6組、巻舌音（そり舌音）4種類であり、声母21種類のうち16を占めることから、中国語の発音の正確さを求める上で極めて重要な位置を占める。

14 語頭子音が現れず、母音から始まる際に観察される声門閉鎖音 [ʔ]。声門閉鎖音 [ʔ] は吳方言において緩やかな入声として音節末尾（韻尾）に現れ、グロータル・ストップと称される。

図1 中国語の声母

調音点 \ 調音方法	閉鎖	破裂	閉擦	破擦音	摩擦	鼻腔	側面
	無気	有気	無気	有気			
両唇	b [p]	p [p]				m [m]	
歯唇					f [f]		
歯茎と前舌	d [t]	t [t̚]				n [n]	l [l]
軟口蓋と舌根	g [k]	k [k̚]			h [ɦ]		
歯茎硬口蓋と前舌			j [tɕ]	q [tɕʰ]	x [ç]		
上顎と舌側面			zh [tʂ]	ch [tʂʰ]	sh [ʃ]		r [ʀ]
歯裏と舌尖			z [ts]	c [tsʰ]	s [s]		

(平井勝利 2012 : pp.13)

2.1 有気音・無気音

有気音・無気音の気は呼気を指し、有は有標、無は無標の意である。声母と韻母の間に呼気を挟むか否かで有気音・無気音の差異が認識され、意味の弁別が行われる。

声母の発音時間は極めて短く、音声の特徴を瞬間的に捉える必要がある。韻母は声調を伴うことから、発音時間はある一定の時間を経過する。声母と韻母の間に無声の呼気が入るように習得する音声学的方法を提示しておくことにする。

- ① 声に出して：カ /ka/、キ /ki/、ク /ku/、ケ /ke/、コ /ko/
- ② 声に出さずに呼気だけで：/ka/、/ki/、/ku/、/ke/、/ko/
- ③ 呼気を長めに出してから母音を伴って、母音は長くのばす：/k^{ha}a/、/k^{hi}i/、/k^{hu}u/、/k^{he}e/、/k^{ho}o/
- ④ スムーズに、滑らかに全体を整え発音する

呼気の /ha/ は無声音であることを条件とすることから、学生は要求をどう実現したらよいかをイメージすることが出来ないため、教授者がデモンストレーションを行って学習者にイメージを示すことが求められる。

図2 有気音 /ka/

k	ha	a
---	----	---

発音時間の割合 (子音+呼気+母音)

無気音 /ga/ との対比を図示することも、中国語における有気音、無気音の対立を理解する上で効果的である。

図3 無気音 /ga/

g	a
---	---

発音時間の割合 (子音 + 0 + 母音)

有気音を正確に発音するためには腹筋を使った複式呼吸を理解し、実践する必要がある。

2.2 卷舌音

卷舌音4種類 (/zh/, /ch/, /sh/, /r/) は北方中国語¹⁵に特徴的な音声現象である。南方諸方言¹⁶を母方言とする話者にとっては発音が難しく、/z/, /c/, /s/との混同が指摘され、卷舌音の習得は中国南方方言話者にとっても習得が困難なであることが広く知られている。当然、聞こえについても地域差が存在するため、外国人である我々にとって標準的な発音、正確な発音はどう捉えたら良いのか調音点の調整に困難を伴う。発声器官の個人的差異¹⁷は避けられないものの、一定の聞こえが実現できるよう、定式化した発音方法を学生に提示することが望ましい。基本的な発音方式を身に付け、基準となる発音が実現できるようになれば、より正確な発音を追求することが可能となる。本稿では標準的卷舌音を発音するためのプロセスを示すこととする。

- ① 日本語でサ行音サ /sa/, シ /shi/, ス /su/, セ /se/, ソ /so/ を発音
- ② 日本語でサ行を拗音にしてシャ /sha/, シ /shi/, シュ /shu/, シェ /she/, ショ /sho/ を発音：
シ /shi/ は拗音化しないが気にしない
- ③ シャ、シ、シュ、シェ、ショを巻き舌にして発音：唇は緊張させないで力を抜く
- ④ 巻き舌のシが中国語の卷舌音 /shi/ であることを認識させる：/shi/ の発声時間を長く取り /i/ の発音が [i] ではなく [ɿ] であることを認識させる
- ⑤ 舌の位置、形を維持させる
- ⑥ /shi/ を発音する要領でチを発音すると /zhi/ になることを認識させる
- ⑦ /shi/ を発音する要領でイを発音すると /ri/ になることを認識させる¹⁸
- ⑧ /zhi/ の有気音である /chi/ は呼気を十分に出すことで実現する

我々日本人にとって /zh/, /ch/, /sh/, /r/ の中から最も発音しやすい /sh/ を取り出しプロトタイプとすることで、/zh/, /ch/, /r/ はその派生形として位置づけられる。/zh/, /ch/, /sh/, /r/ を並列に扱うことも可能ではあるが、学習者の心理的抵抗を和らげるために学習段階に傾斜を

15 大きく長江以北の華北平原を中心とする地域に話される方言を指す。

16 主には長江以南に話される呉方言、贛方言、湘方言、閩方言、客家方言、粵方言を指す。

17 卷舌音を発音する際に重要なのは空気の流れを調整する舌と歯である。舌の形状、歯並びが呼気に影響を与え、聞こえにバリエーションが生じる。

18 リ /ri/ でも大きな問題にはならないが、/r/ の有声音化が顕著になり過ぎる傾向があるため、スタートの段階ではイの音を用いて試みる。

付けることを提案する。

3. 声調

中国語は、その特徴の一つとして声調¹⁹を有する声調言語であることが指摘できる。“普通話”と称される標準的中国語には4種類の声調が設定されており、北方方言の中でも北京方言の声調モデルが採用されている。4種類というのは、

第1声：高く、平らにのばす

第2声：一気にひっぱり上げる

第3声：低くおさえる

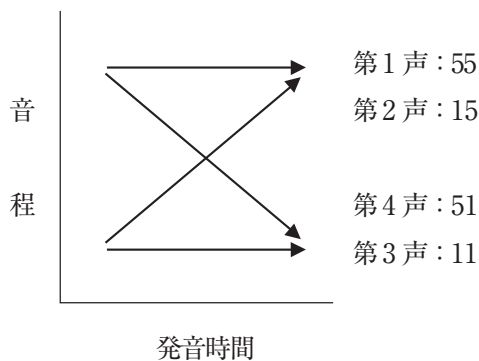
第4声：一気に下げる

(興水優 2005：pp.60)

軽声と対比することで、声調には一定の音程、一定の発音時間（長さ）、一定の強さを要素として認めることが出来る。音程（調値）は5段階とするのが一般的である²⁰。

図示すると次のようなイメージスキーマとして表すことが出来る。立軸は音程、横軸は発音時間を表す。

図4 声調イメージ図



音程の変化について注目して整理すると、二項対立の組み合わせとして体系化できる。

19 服部四郎 (1984：pp.142) は声調 tone、pitch について「音声連続における声の高さの変動（あるいは不変動）を音調という。呼気段落あるいは文に該当する音声連続について言われるのが普通であるが、「音節音調」「単語音調」ということもできる。音調音節（またはその型が社会習慣的に一定している現象）を声調という。シナ語の四声（入声を除く）がその一例である」と述べる。

20 Jerry Norman (1988:pp.145) によれば、趙元任が *A system of tone letters*:1930 において、この方式を取り入れたのが最初であるという。趙元任は音楽家としても活動し作曲を手掛けている。5度音階あるいは5音階は五行説の角・徴・宮・商・羽を思い起こさせる。

{ 不変：第1声：高 — 第3声：低
 { 変化：第2声：上昇 — 第4声：下降

音程の高低を決定する語頭子音の清音（無声音：陰）・濁音（有声音：陽）の対立に着目して整理することも声調のイメージを把握することに対して有効である。

{ 清音・陰：第一声（陰平）²¹・第四声（陰去）
 { 濁音・陽：第二声（陽平）・第三声（陽上）²²

4. おわりに

発音に続く語彙、文法についての学習成果可視化のためのチェックリスト試案は別稿にて検討を行い、最終的には劉英林・李佩澤・李亜南 2020 が提起するようなループリック²³に落とし込んだ形での可視化の完成を目指すものである。大方の忌憚の無いご意見を賜れば幸いである。

図5 3等級9級数値化指標ループリック²⁴

		音節	漢字	語彙	語法
高等	7 - 9 級	202/1110	1200/3000	5636/11092	148/572
中等	6 級	86/908	300/1800	1140/5456	67/424
	5 級	98/822	300/1500	1071/4316	71/357
	4 級	116/724	300/1200	1000/3245	76/286
初等	3 級	140/608	300/900	973/2245	81/210
	2 級	199/468	300/600	772/1272	81/129
	1 級	269	300	500	48
総 計		1110	3000	11092	572

(劉英林・李佩澤・李亜男 2020: pp.152)

参考文献

沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾 2006『図解日本語』、三省堂

金丸邦三 1994『中国語四週間』、大学書林

21 金丸邦三（1994：pp.10）は第1声を「上平声」、第2声を「下平声」と記述する。

22 上声に陽上が認められるのは広東語であり、多くの方言における上声には陰陽の対立は見られない。ここでは高低の対立を明確化するためのイメージとして陽上声を提示したに止まる。

23 ループリック：文部科学省平成28年1月28日総則・評価特別部会資料6-2「学習評価に関する資料：ループリックについて 30-33」参照。

24 原題は“三等九級量化指標（組合）総表”。“量化”は「数値化」に相当する中国語表現。このループリックの根拠となっているのは次の文献である。＜国家漢弁、教育部社科司、《漢語国際教育用音節漢字詞彙等級劃分》課題組（劉英林、馬箭飛主編）（2010）《漢語国際教育用音節漢字詞彙等級劃分》（国家標準・応用解説本）、北京：北京語言大学出版社＞。数値の具体的な内容は同書を参照する必要がある。

- 日下恒夫 2007『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』、アルク
- 興水 優 2005『中国語の教え方・学び方——中国語教科教育法——』、日本大学文理学部
- 崎山 理 2017『日本語「形成」論——日本語史における系統と混合』、三省堂
- 中島平三・外池滋生 1994『言語学への招待』、大修館書店
- 橋本萬太郎 1989「中国語」、『言語学大辞典』第2巻・世界言語編(中) pp.892-906
- 服部四郎 1984『音声学』、岩波書店
- 平井勝利 2012『教師のための中国語音声学』、白帝社
- 邵敬敏主編 2001《現代漢語通論》、上海教育出版社
- 錢乃榮主編 1995《漢語語言学》、北京語言学院出版社
- 楊文全主編 2010《現代漢語》、重慶大学出版社
- 劉英林・李佩澤・李亜南 2020《漢語国際教育漢語水平等級標準全球化之路》、《世界漢語》第34巻
2020年第2期 pp.147-157
- Jerry Norman 1987 *Chinese*. New York: Cambridge University Press.

付表

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅰ 韻母・声母

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅱ 声調

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅰ 韻母・声母

1 単母音 (6) a o e i u ü		確認事項	自己評価	教員側評価
01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2 二重母音 (9) ai ei ao ou ie ia ua uo üe		確認事項	自己評価	教員側評価
01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3	三重母音 (4) iao iou uai uei			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4	鼻音を伴う母音 (16) an en ang eng ong ian iang in ing iong uan uang uen ueng üan ün			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5	特殊母音 (1) er			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6	子音 ① bo po mo fo			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7	子音 ② de te ne le			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

8	子音 ③ ge ke he			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9	子音 ④ ji qi xi			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
10	子音 ⑤ 卷舌音 zhi chi shi ri			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
11	子音 ⑥ zi ci si			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
12	子音 無気音 bo de ge ji zhi zi / 有気音 po te ke qi chi ci			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

13	-n -ng の区別 鼻音を伴う母音の韻尾 -n と -ng			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
14	中国語の音節 音節一覧表			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

発音習得過程の可視化に関する試案Ⅱ 声調

1	第一声 mā			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2	第二声 má			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3	第三声 mǎ			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4	第四声 mà			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5	軽声 ma			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6	声調の組み合わせ 第一声+第一声・第二声・第三声・第四声 māmā māmá māmǎ māmà māma			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7	声調の組み合わせ 第二声+第一声・第二声・第三声・第四声 mámā māmá māmǎ māmà māma			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
8	声調の組み合わせ 第三声+第一声・第二声・第三声・第四声 māmā māmá māmǎ māmà māma			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9	声調の組み合わせ 第四声+第一声・第二声・第三声・第四声 māmā māmá māmǎ māmà mǎama			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
10	連読変調 第三声+第三声 māmā māmá māmǎ māmà mǎama			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
11	連読変調 数字“一” 一天 一条 一匹 一下			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
12	連読変調 否定副詞“不” 不说 不来 不想 不去			
		確認事項	自己評価	教員側評価
	01	聞き分けることができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	02	発音することができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	03	ピンインを正しく発音できる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	04	ピンインを正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

13	数字 “零”から“十” 零 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十																
			確認事項					自己評価					教員側評価				
		01	聞き分けることができる					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		02	発音することができる					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		03	ピンインを正しく発音できる					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
		04	ピンインを正しく書くことができる					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	05	発音を聞いて正しく書くことができる					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	